

知事と区市町村長との意見交換（中央区）

令和1年10月21日（月）

16時00分～16時20分

○行政部長 早速でございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 座ったままで失礼いたします。今日は御多用のところ山本区長はじめ、中央区の皆様方にお越しいただきまして、ありがとうございます。また、平素よりの様々な都政運営に関しましての御協力、誠にありがとうございます。

今、ラグビーの真最中で、昨日は残念でしたけれども、それが今度一段落しますと、いよいよ2020年のオリンピック、パラリンピックということでございまして、こちらにも御協力を賜っておりますが、多くは今は述べませんが、大会の成功を目指していかなければならない。

今、そして長期戦略を東京都として描きつつございます。ビジョン策定にあたっての中央区の考えを、短い時間で恐縮ですがお聞かせいただきたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは山本区長、お願いいたします。

○中央区長 今日は大変御多忙の中を、貴重なお時間をちょうだいいたしまして、本当にありがとうございます。また、日頃から中央区政にもいろいろと御協力を賜っておりまして、厚く感謝を申し上げる次第でございます。

今日はどちらかと言うと、中央区のこれからのまちづくりのビジョンを中心にお話を申し上げたいと、こんなふうに思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

さて、進めてまいりますけれども、中央区は、都の長期戦略や施策などに関連する本区の重要施策等として2点、知事にお伝えしたいと思っております。資料は事前にお渡ししておりますから、要点のみお話をさせていただきます。

まず1点目は、築地跡地の再開発でございます。築地の再開発は今後の本区のみならず、東京都や日本の魅力をも左右する大きな問題でございます。

築地再開発に関する中央区の考え方については、既に要望書として知事にお伝えしてございます。

築地まちづくり方針によりますと、整備の完了まで20年以上かかる可能性がございますけれども、実は、これでは食のまち築地の賑わいを維持し続けることが、非常に困難にならざるを得ないと考えております。少なくとも半分の10年で完成するぐらいのおつもりで、強力に推進をしていただきたいと思いますと思っておりますので、よろしく願いいたします。

開発の進め方につきましても、部分的な進め方ではなく、地域に確かな夢を抱かせる総合的、全体的なビジョンを早急にお示しいただきたいと存じます。区としてはそのように考えております。

要望の趣旨を踏まえて、それに沿った開発をぜひともお願いしたいと考えております。

また、築地市場跡地内の土地を場外市場の事業者の荷下ろし場として、今現在、貸し付けていただいていることにつきましては、本当に心から厚く感謝、御礼申し上げることでございまして、今後とも引き続き御協力をお願いしたいと感じております。よろしくお願いいたします。

2点目は、首都高速道路の地下化をはじめとする、新たな都市基盤の整備についてでございます。

日本橋では、首都高速道路の老朽化対策と周辺の再開発を一体的に進める方針の下、今月11日に、日本橋の上空を覆う首都高速道路の地下化に関する都市計画決定がなされ、実現に向けた大きな一歩を踏み出したところであり、東京都さんの御尽力、御協力に感謝申し上げます次第でございます。

川面に日の光を取り戻すことによって、日本橋川の水質浄化も大きく前進していくことになることを期待いたしております。

日本橋の首都高速道路の地下化に併せて、東京高速道路、いわゆるKK線の使い方を見直す検討が、東京都においても始められておりますけれども、区といたしましても、首都高速八重洲線から首都高速都心環状線の築地川掘割部分に接続する新たな地下ルートを整備して、上部をニューヨークのハイラインのように、人で賑わう緑のプロムナードにすることを願っている次第でございます。

首都高速都心環状線の築地川区間については、大規模更新の機会を捉えて、掘割部分にふたをして、上部空間を緑化し、先ほどお話したKK線上部の緑のプロムナードと一体となった、日比谷から銀座、浜離宮へと続く緑のアメニティ空間をつくることを構想しております。

水と緑のネットワークの拡充により、緑豊かで快適な環境都市東京の象徴をつくり上げたいと考えております。

また、日本橋の首都高速道路の地下化や、首都高速都心環状線の新たなルート整備に併せて、高速晴海線の首都高速都心環状線への地下での接続も可能になると考えられるわけでございます。接続部に近接する築地市場跡地の再開発における交通結節点としての機能も首都高速都心環状線と環状2号線との接続も含めて、首都心臓部の交通機能が飛躍的に向上いたします。

さらに、築地市場跡地に予定されている船着場からは、空港などへの舟運による水上交通の活用も期待できるわけでございます。

この高速晴海線の延伸により、都心部・臨海地域地下鉄、いわゆる地下鉄新線の整備につきましても、地下設置という共通点を有することから、一体整備による早期実現の可能性を高めることができると考えておりますし、また、工費の面でも非常に縮減が図れるのではないかという可能性も秘めていると思われまます。

都市再生の機会を活用した、首都高速道路の地上部撤去と地下化、周辺の再開発事業等による一体的まちづくり、都心部の緑化、豊かな水辺環境の創出、地下鉄新線の整備などの新たな都市基盤の整備は、持続可能な環境都市東京、国際都市東京、成熟都市東京の象

徴になるものです。

区と都、関係団体が積極的に連携を取りつつ、共に推進していくことを望みます。

私からはこのまちづくりの骨格についてのお話をさせていただきました。御清聴ありがとうございます。

○知事 ありがとうございます。主に築地のまちづくりから、ずっと中央区の大きなビジョンを伺わせていただきました。

中央区さんとそれから民間事業者が、それぞれ連携をしていくことがまずもって必要だというのが1点と、それからおっしゃいますように、水の都にふさわしい舟運の活性化であるとか、切り口はいくつかあろうかと思えます。

具体的に、築地の場外市場との繋がりといった観点から、船着場の周辺エリアの先行整備ということ、まずそこから始めてまいります。

それから築地場外市場などとの繋がりにも配慮いたしまして、交通の結節点にふさわしい賑わいの創出ということを考えております。

それから、機能を導入する点については、食文化の拠点としての築地がこれまで長年育んでこられました、その活気と賑わいを考えますと、新たな賑わいや集客をつくり出していくという点にも留意していきたいと考えております。

それから跡地でありますけれども、10年、20年という話でございますけれども、東京2020の大会が終了いたしますと、もうあつという間ですね。本当にあそこの跡地がほぼ更地になりつつありますけれども、その後、もちろんデポになり、そしてその後は速やかにまちづくりを進めていくということで、今、まちづくりの協議を各分野の方々からお話を伺いながら、参考にしながら進めているところでございます。

築地場外市場の荷下ろし場については、来年の9月までに築地の市場跡地内の土地が貸し付けられますように、現在検討しているところでございますので、まずこれが具体的な点でございます。

それから2020大会のレガシーは、1964年が首都高だ、新幹線だと、目に見えるインフラが多かったのに比べまして、今度の重要性は見えないインフラだと。まさしく見えないインフラの一つが首都高の地下化でございます。もう一つは電波の道をつくるということで、5Gを進めると、これを申し上げているところですが、日本橋周辺の首都高の地下化というのは、これは地域の皆様方からのお声も長年ちょうだいをいたしておりますし、それから品格ある景観の形成という点で、東京の成熟度を高める一つの象徴にもなるかと思えます。

ちなみに昨日、日本橋を通ってまして、今、風呂敷展をやっておりますので、麒麟像と獅子像が風呂敷をまとって、三越のライオンさんの所に風呂敷置いてありますので、ぜひ御覧いただければ。お店の前です。

それで地下化に伴って必要になりますのが、大型車の環状方向の交通機能の確保策でありまして、実現可能性の観点から、今2案に絞って検討を進めているところであります。

それからハイラインという言葉も出ましたけれども、東京高速道路、いわゆるKK線です

けれども、先般、既存施設の在り方検討会を設置いたしました。有識者による意見交換が開始をされたところで、海外の事例なども参考にしながら活用策を考えていきたいと思っております。

これもまちづくりとすれば、とても画期的な案ではないかなと。20世紀の車の時代から、次の時代を象徴するような、そういうビジョンをお示しいただいたかと思っておりますし、今、在り方検討会の方で、まさしく検討を進めているところであります。

それから都心部、臨海地域の地下鉄構想、それから臨海地域の拠点機能の一層強化ということでございますが、ネットワークの面からも東京全体の公共交通をどうするかということが課題で、その利便性の向上には今お話のあったところは寄与する路線だと考えております。

国の答申では、事業性の課題であるとか、熟度がまだ足りないとかって言われておりますけれども、事業主体を含めた事業計画について、この辺りは十分な検討は必要かと、このようにされております。

答申を踏まえまして、臨海地域での開発動向などを勘案しながら、構想をより具体化して熟度を上げていければと思っております。

いずれにしましても、区と、そして民間事業者等々、関係者が連携しながら進めるということが必要だと、このように考えております。

○行政部長 区長、いかがでしょうか。

○中央区長 本当にありがとうございます。臨海部の交通機能というのは、選手村の跡地に1万2,000名の新しいまちがそこに出来上がってまいりますので、もう今でも勝どき駅というのはもう大変な混雑をしている状況にもございますので、ぜひとも新しい交通手段というものを都心部に迎えることを強く希望して、これまでもおりましたけれども、ちょうど首都高速の晴海線の晴海の辺りまで来ている出入り口の所から先に、ちょっとという言い方が良いかどうか分かりませんが、延伸をしていただくことによって、今の都心環状線の構想にうまく合わせていくことが可能になりますし、それから地下鉄も恐らく一緒に開発すると、立坑の部分でも、かなり経費を節減して、両方の計画を進めることができる。そういうことになる利点もあるかということで、自分のために言うわけではないですけれども、そういうことも客観的に考えれば、間違いのない構想であり、いわゆる都遠心部から首都圏へ向かう大きな動脈がそこに生まれてくる。これは非常に大きな交通改革になるのではないかと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

それからそのグリーンベルトのKK線も、極力、中央区はこれまでも水と緑で、水は元々多いんですね。緑を、首都圏なので場所がありませんけれども、極力その緑を増やしていこうという政策は、これまでも進めてきておまして、多分CO2はそれによって縮減される。0コンマ何%かもしれないかもしれませんが、縮減される効果があるので、極力そういうものは置ける所には、緑化を推進していくということで、これはアメニティの創出でもあり、同時に一つのこれからの持続可能なまちという将来的ビジョンにも資するものとして捉えながら、それ以外にも、今、東京都さんと一緒にやっております、水素の問題。これもな

かなかコストの問題もあって、実用化は難しい域にはありますが、これも開発が進めば、それからリチウム電池とかいろんな電池も改良されるようですから、そんなことを考えてまいりますと、ローコストになってくれば、これもCO2の節減に繋がりますし、それから首都高速道路が地下化されていくと、そこに風の道が出来ますから、それによって都心部の平均気温が下がってくるメリットもある。

それから、中央区が檜原村でやってる中央区の森という事業もあるわけですが、そのことの連携事業を図るということ。

それから、これから再開発をしていく建物にも極力、CO2を排出しない、いわゆる自熱発電、自分の所のタービンを回す時に出てくる熱を活用してエネルギーをつくるという自家発電機能、自熱発電機能、そういうものも導入していったら、極力、再開発にCO2が。

時間がオーバーして困りましたけれども、そんなこともありまして、大きな意味の環境、あと持続可能なまちづくりに絡めてこの緑の問題、グリーンベルト、KK線も、このこともその中の一つの大きな捉え方として、これからの中長期で進めていきたい。まちの人達にもそれに一緒になってやってもらう。このような感性でこれから進めていきたいと考えておりますので。

時間がオーバーしたようで誠に恐縮でございましたが、一つ、少しでもお聞きとめをいただければありがたいと思っております。貴重な時間、ありがとうございます。

○行政部長 最後に知事から一言、お願いいたします。

○知事 ありがとうございます。これからも区と都と、しっかり連携を取らせていただきたいと思います。ちょうど彼女は結節点のようでございますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。